

空港の多様性に関する基礎的研究
—乗降目的以外の役割に着目して—

日本大学

正会員

〇西山 孝樹

日本大学

正会員

天野 光一

東京地下鉄株式会社

非会員

石松 玲

1. はじめに

空港とは、本来航空機の発着の場であり、主として乗降目的の利用者が訪れる。しかしながら、最近では展望デッキの整備や「空の日」にまつわるイベント、ソーシャルネットワーク等による情報公開などを行う空港が見受けられるようになり、先述した本来の機能を果たすだけではなくなっているといえる。

そこで本稿では、全国の空港で行われている独自の取り組みを調査し、空港が持つさらなる可能性を明らかにした。

2. 研究方法

国土交通省が定める会社管理空港、国管理空港、特定地方管理空港、地方管理空港、その他飛行場、共用空港から 93 空港を対象として調査、分析を行った。

その結果、64 空港で乗降目的以外の要素が抽出できた。なお、それら 64 空港で行われているイベント、取り組み、託児所などの施設を「要素」と定義する。

3. 抽出された要素の分類

2 章で示した 64 空港からは 125 の要素が抽出され、その分類を表-1 に示した。表中の「空港利用者」とは、航空機へ乗降のために空港を訪れた旅行者や出張者とする。「空港利用者以外」を対象とする要素は、乗降目的以外の利用者（主に地域住民）を巻き込むことが期待でき、航空機を利用するという空港本来の機能を越えた役割を成すと考えられる。また、「空港利用者」を対象とする要素は、搭乗までの待ち時間を楽しめる企画や施設などを提供する役割があると考えられる。

これらを踏まえると、125 の要素は、(1)「空港利用者以外」を対象としている要素と (2)「空港利用者」を対

象としている要素に分類することができた。「空港利用者以外」を対象としている要素がみられる空港は 64 空港中 52 空港と多く、「空港利用者」を対象としている要素がみられる空港は 26 空港で存在した。また、それら双方の要素がみられる空港は、14 空港で存在していた。

4. 抽出された要素の特徴

表-1 に示した 125 の要素はそれぞれ「地域らしさ」、「空港らしさ」、「その他の魅力」（以下、魅力の因子）を持つことが明らかとなった。さらに各要素は、「対象がどこに向けられているか」と「魅力の因子」によって分類でき、表-1①～⑥のいずれかの項目が該当する。ただし、複数にまたがるものもあり、1 要素 1 項目とは限らない。

主に「空港利用者以外」を対象とする要素は、「空港らしさ」を魅力に持つものが 90 要素中 68 要素と多い。

一方、「空港利用者」を対象とする要素は、「地域らしさ」を魅力に持つものが 35 要素中 21 要素という傾向にあった。これは、「空港利用者以外」は、あえて空港に足を運び、「空港らしさ」を魅力に持つ要素を求め、「空港利用者」は、空港の所在する「地域らしさ」を魅力に持つ要素をより求めることが顕著に現れたと考えられる。

なお、「空港利用者」を対象としていながら、「地域らしさ」のみを魅力に持つものは、125 要素の中でも宮古島空港で実施された 1 要素に留まっていた。

5. 抽出された要素の典型的な事例

(1)「空港利用者以外」を対象とする要素

a) 「地域らしさ」を魅力に持つ要素

・茨城空港「夜空(そら)コン」—表-1 項目①, ②

2016 (平成 28) 年 9 月に行われた、いわゆる街コンスタイルのイベントで、茨城空港と地域振興施設「空のえき そ・ら・ら」を巡りながら、事前申し込みを行った男女に新たな出会いが提供された。「空のえき そ・ら・ら」には、物産館や地元食品直売所が完備されており、イベント時の立ち寄りによって地元貢献が可能であったと考えられる。

表-1 「対象者」と「魅力の因子」の分類 (125 要素)

対象者	魅力の因子		魅力の因子		魅力の因子		合計
	項目	要素数	項目	要素数	項目	要素数	
空港利用者以外	①	8	②	68	③	32	90
空港利用者	④	21	⑤	6	⑥	12	35
合計							125

・福島空港「ふくしまおおぞらフェスタ」

—表-1 項目②, (④, ⑤)

2016(平成28)年5月14~15日に、福島空港のターミナル、エプロン(飛行機駐機場)、駐車場エリアにて音楽フェスティバルが開催された。地元からの参加者に加えて、全日本空輸株式会社(ANA)によって企画されたフェスティバルを含むツアーへの参加者もみられた。ツアーの内容には、往復の航空便(チャーター便)と宿泊に加え、産地直売所や、「野口英世記念館」への立ち寄りという観光も含まれていた。参加者に対して、地元への立ち寄りを促すことが可能であったことから、「地域らしさ」を魅力に持つといえる。また、エアラインの協力によっても、さらなる魅力展開がなされていた。

b)「空港らしさ」を魅力に持つ要素

・鳥取空港「早朝滑走路マラソン」—表-1 項目②

2016(平成28)年7月、早朝の定期便が就航する前に、普段は立ち入りが制限されている全長約2,000mの滑走路をコースとするマラソンが行われた。さらに、ANAの協力によりコース内に駐機している機体の下を通ったり、触れたりすることも可能であった。なお、本イベントへの参加は事前申込者に限られるものであった。

・静岡空港「空の道一般開放」—表-1 項目②, (⑤)

2016(平成28)年9月の空の日イベントに伴い、普段は立ち入りが制限されている空港管理道「空の道」の無料一般開放が行われた。予約不要であることより、「空港利用者」も参加可能であったと考えられる。

c)「その他の魅力」を持つもの

・能登空港「奥能登行政センター」—表-1 項目③

空港ビルに行政機関が合築されている日本初の事例である。住民票の写し、印鑑証明書の受け取り、パスポート発券などの行政サービスが受けられる。

本稿で述べてきたイベント以外にも、独自のサービスが行われていた。行政との連携により、地域住民の利便性に貢献している事例であるといえる。

・広島空港「エアポート恐竜ワールド」

—表-1 項目③, (⑥)

2016(平成28)年7~9月の期間に、恐竜の模型や化石の展示、恐竜映画の上映などのイベントが行われた。全長5mの大型恐竜模型が到着ロビーに設置され、イベントを知らずに空港を利用した人も楽しめる内容であった。

・新千歳空港「ソラシネマちとせ」—表-1 項目③, (⑥)

国内初として空港ターミナルに併設された全3スクリ

ーンを有する映画館である。常設の施設から魅力展開が行われた事例に該当すると考えられる。

(2)「空港利用者」を対象とする要素

a)「地域らしさ」を魅力に持つ要素

・仙台空港「屋上展望デッキビアガーデン」

—表-1 項目④, ⑤(①, ②)

2016(平成28)年8月、展望デッキにビアガーデンが設置された。食事メニューに牛タンなどの地元名産品が含まれており、「空港利用者」が満足できる内容であった。営業時間や空港までのアクセスを考慮し、該当項目は上記のとおりとした。

・大分空港「大分空港足湯」—表-1 項目④

到着ロビーに足湯が常設されており、無料で利用できる。短時間での利用が推進されており、かつ「日本一のおんせん県大分」特有の施設であることから「空港利用者」を対象としているといえる。

(3) 魅力提供者としての参加

・徳島空港「歓迎阿波踊り」—表-1 項目④

阿波踊りの期間中、到着客を迎えるためにターミナルで地元団体による阿波踊りが披露された。到着客にとっては「地域らしさ」を味わえる要素である。しかし、演者側の視点から見ると、空港を利用して、まちへの愛や日頃の成果を披露するという意味合いが強く、空港が地域における発表の場ともなっている。地域住民などが魅力提供者として寄与しており、この要素は、空港の新たな機能として大きな意味を持つ事例といえるであろう。

6. まとめ

本稿では、全国の空港を対象とし、各空港で行われている独自の取り組みや施設を調査した。空港がより開かれた場所として展開しようとする姿がみられ、多様な役割を明らかにした。

さらに、航空会社をはじめとして、空港と関連する組織や会社等の協力や季節性をもった取り組みの意義も明らかとなり、今後の展開が期待できる。乗降目的以外に空港が持つ役割に対して、これからも拡充の余地があると考えられる。

参考文献

- 1) 国土交通省ホームページ：
http://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000310.html, 2016年7月10日閲覧。
- 2) かしわひろゆき他：『全国空港ウォッチングガイド最新改訂版』、イカロス出版社、305p、2016。
- 3) 月刊エアライン編集部：『ニッポンの地方空港最前線』、月刊エアライン、2015(9)、pp.26-63、2015。